

第270話

『〇〇設計マニュアル』シリーズの今後
有言実行をねらったお話

- (2002)『[教材設計マニュアル](#)』鈴木(単著)
- (2011)『[授業設計マニュアル](#)』稲垣・鈴木(編著)
- (2015)『[授業設計マニュアル ver.2](#)』
- (2015)『[研修設計マニュアル](#)』鈴木(単著)
- (2017?)『[学習設計マニュアル](#)』美馬・鈴木(編著)
 - 背景 = [美馬科研](#)、[ibstpi®OLLコンピ](#)、[ARCS2種類](#)のヒント
 - 背景 = [知識労働者からLearning workerへ](#)、[学ばない大人](#)
- (受注済)『[教材設計マニュアル\(増補版?\)](#)』2016?
- (妄想中)『[評価設計マニュアル](#)』2018?
 - [鈴木](#)の3段階モデルを枠組みに採用(予定);未着手
- (たぶん書かない)『[職場設計マニュアル](#)』×
- 他にリクエストは?



「教材設計マニュアル」(2002)

— 言いたいことを全部書いた本

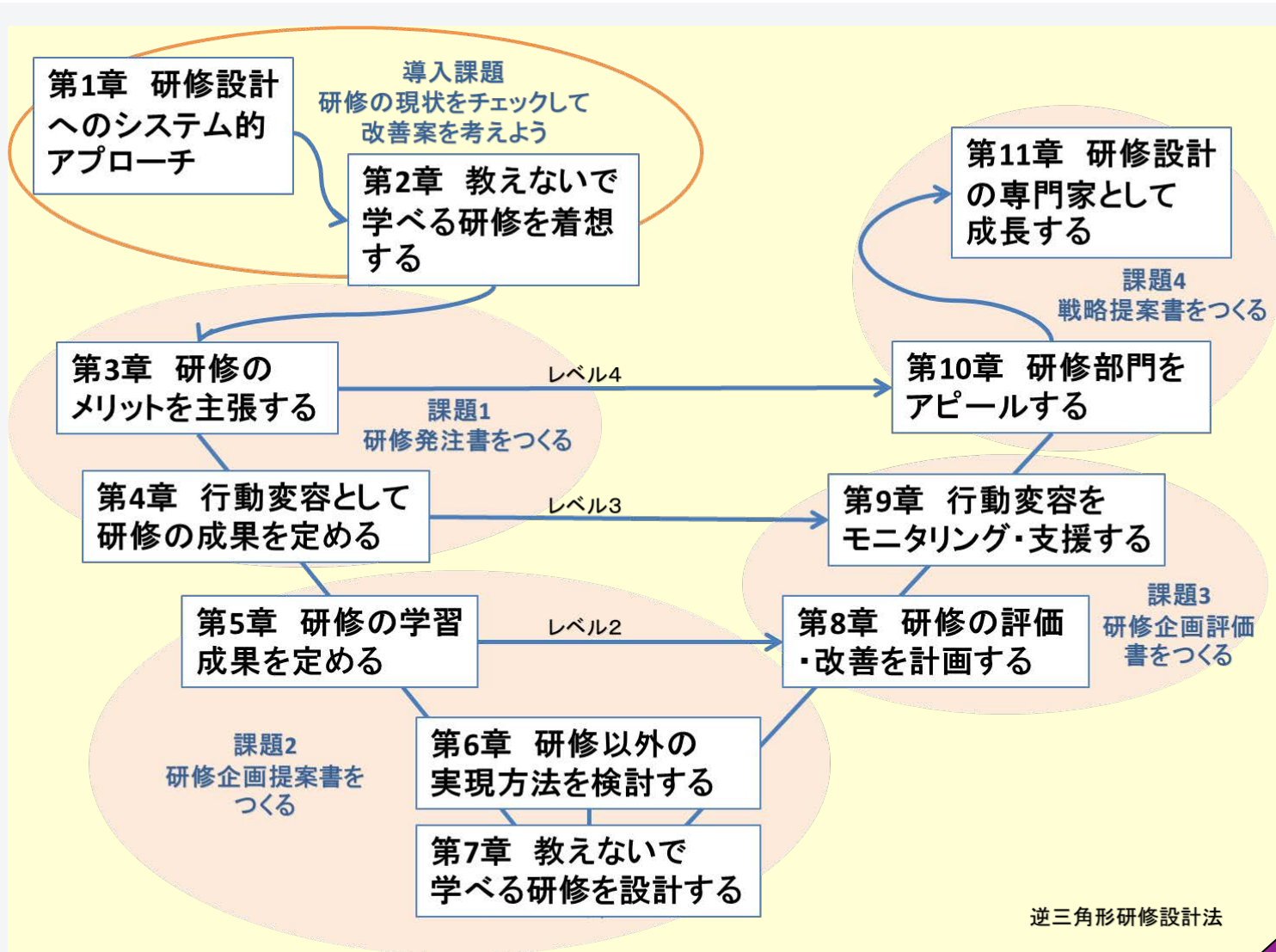


- 教職課程「教育方法」のテキストとして執筆した。
- 講義で話すことがなくなった。
- 講義時間は、確認テスト&相互チェック作業&相談の時間になった。
 - 寝ている人はいなくなった。
- 言いたいことを書くだけでなく、ID的工夫を盛り込んだ。
 - 学習目標・キーワード・背景・練習・フィードバック・見取図・課題・カリキュラム案・(テスト)





『研修設計マニュアル』の構成

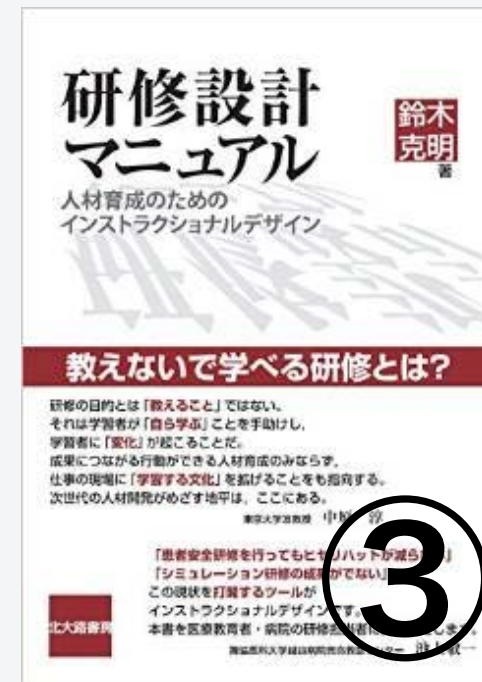




『研修設計マニュアル』 発刊！

設計マニュアル4部作第3弾

(北大路書房から2015年4月に出版)



④ 学習？



決定！ 第4弾は 「学習設計マニュアル」



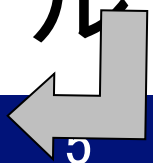
Kumamoto University

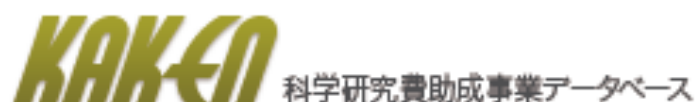
大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻



④学習設計マニュアル

eラーニング専門家をeラーニングで養成！ 熊本大学大学院 教授システム学専攻





[←前のページに戻る](#)



大学生の3段階成長モデルの確立とその育成支援システムの開発

研究課題番号: 15H02932

代表者

2015年度



[美馬のゆり](#)

研究者番号: 00275992

公立ほこだて未来大学・教授

この研究課題のドキュメント

2015年 [採択課題](#)

研究課題基本情報(最新年度)

研究期間 2015年4月1日～2018年3月31日(予定)

研究分野 [教育工学](#)

研究種目 基盤研究(B)

配分額 総額:6240千円 2015年度:6240千円 (直接経費:4800千円, 間接経費:1440千円)

このページのURI

<https://kaken.nii.ac.jp/d/p/15H02932.ja.html>



CHRO(最高人事責任者)
CLO(チーフラーニングオフィサー)

取締役

評価者

外部から既存の教育研修を
点検する専門家

CHRO/CLOを支える専門家

研修マネージャ

人材育成策を管理・運営する
専門家

+

インストラクショナル
デザイナー(ID)

人材育成の課題を分析して
解決策を設計評価する専門家

+

インストラクタ

対面やオンライン環境で
教育研修を実施する専門家

学習者を育てる・
自分で育つための視点

オンライン学習者

ICT時代に有能な学習者として
必要な資質(知識・スキル・態度)

©2016 鈴木克明

教授システム学専攻

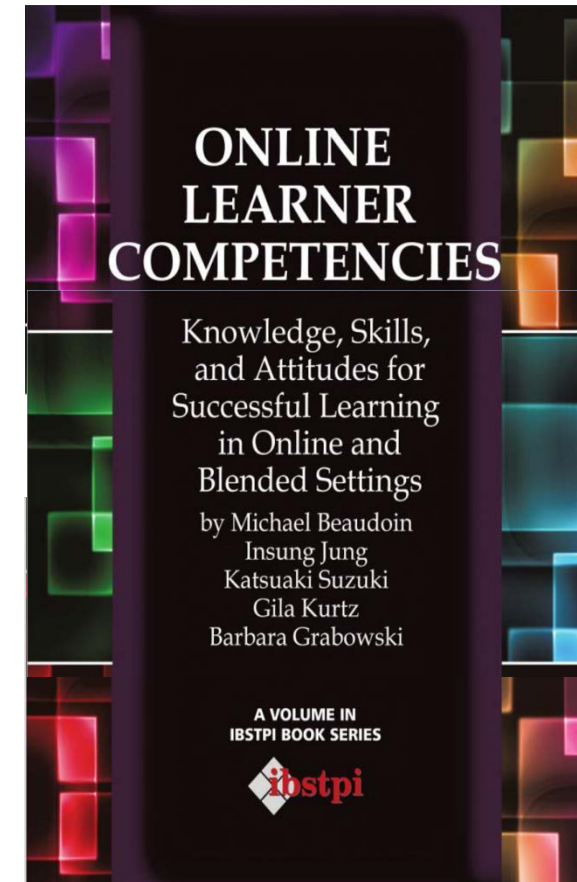
eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室
ランチョンセミナー

Kumamoto University



ibstpi®専門家コンピテンシー関連図

©2014鈴木克明 参考: <http://ibstpi.org>



ARCSモデル2種類のヒント集

IDモデルは裏側から見れば学習設計

教材づくり編

公開講座資料6-7ページ

- 学習意欲の低さは学生や受講者の責任ではない。授業・研修を魅力的にしましょう！

出典：鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル』北大路書房

学習者編

公開講座資料8-9ページ

- 学生や受講者をいつまでも甘やかしてはいけない。やる気を自分でコントロールさせよう！

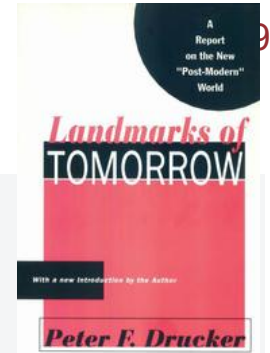
出典：鈴木克明(1995)『放送利用からの授業デザイナー入門～若い先生へのメッセージ～』日本放送教育協会、第5章



知識労働者から学習労働者へ

Knowledge worker

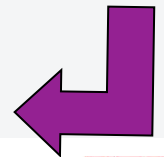
Learning worker



1959年 ドラッカー「ナレッジワーカー」

- 今「ナレッジワーカー」から「**ラーニングワーカー**」へ
- 今日の情報膨張時代では、ある特定トピックについての知識を有していることよりも**学べることがより大きな意味を持つ**。「もはや、何かを知っていることではなく、**何かを学び続けていること**を意味する」人材育成専門家は知識を伝達することに焦点をあてるのではなく、**従業員が「学び方を学ぶ」支援**を提供すべきだ。

出典:TD 2015年10月号, p.13 (Word Wiz)からの試訳(一部)



ニッポンはこのままで大丈夫 (1) ??

広い視野を身につけ自らの市場価値を主体的に高める意識は低い

- 新人の54%、若手の58%、中堅の67%は、自主的な学習をしていない。
- 自主的な学習をしている人でも、1週間の学習時間が1時間未満が3～4割

リクルートマネジメントソリューションズの調査 (2014より)



ニッポンはこのままで大丈夫 (2) ??

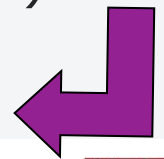
日本企業の社員の典型像

(回答者全体を数値順に並べた中央値からの推測)

- 経済新聞・ビジネス雑誌・ビジネス書を全く読まず、
- 社外の勉強会や社内の研修に参加せず、
- 1日平均30分間のテレビの経済・産業ニュースの視聴のみから、自分の仕事以外の経済や産業の情報を得ている。

情報収集量は年収水準とは相関せず、昇進の有無と相関する

横浜国立大学服部准教授の調査 (2014より)

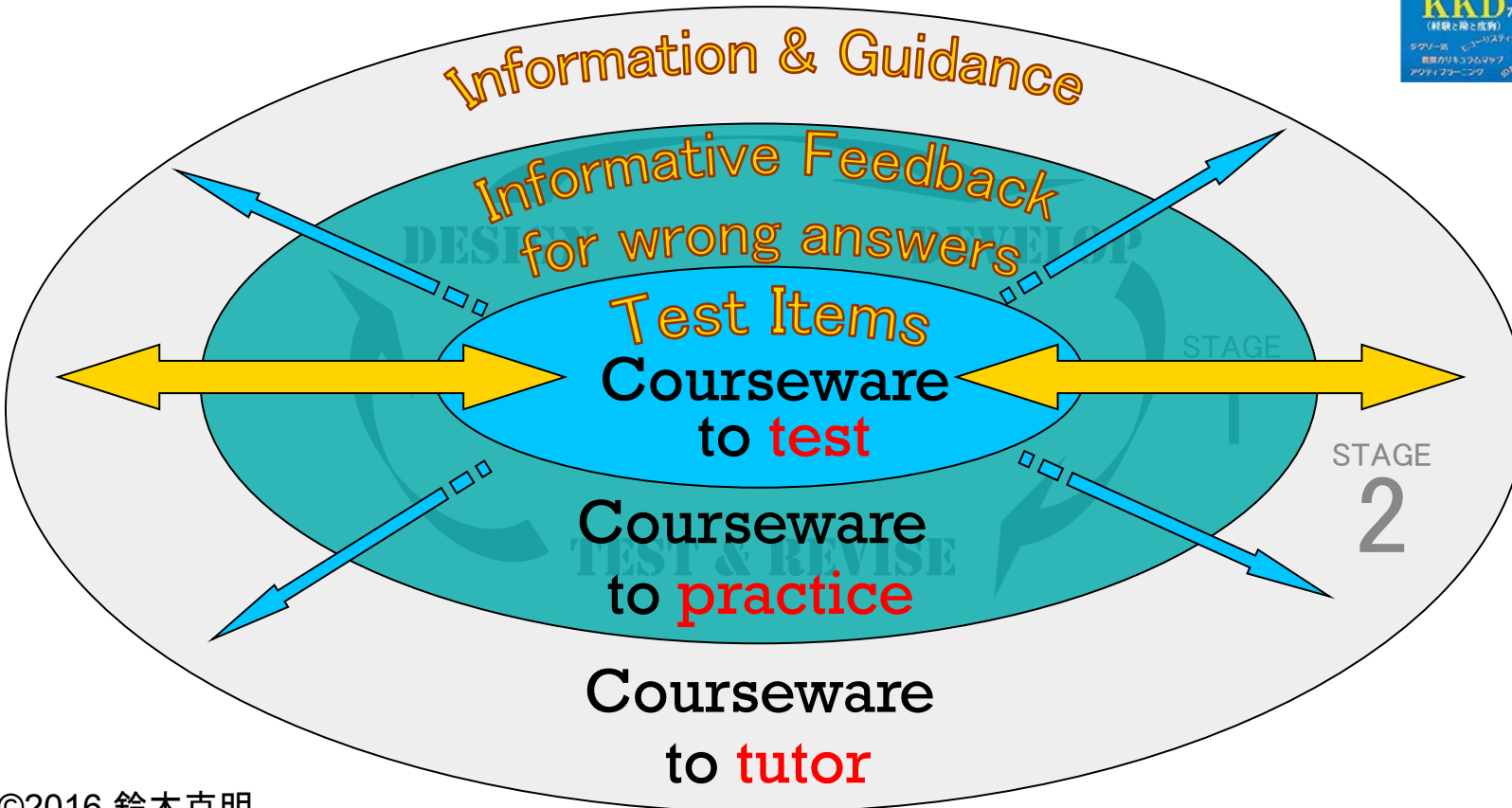


Three-stage Model (Suzuki, 1987)

Suzuki, K.(1987). A short-cycle approach to CAI development: Three-stage authoring for practitioners. *Educational Technology*, 27(7), 19-24



Inside out for new development
Iterative for existing materials



STAGE 3

